

平成26年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	少年・婦人消防クラブ活動事業						担当部	消防本部				
	会計区分	一般会計			事業類型	一般			担当課	予防課			
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降			担当係	予防係			
	総合計画 分野別計画	主目的	1 安全・環境		3 消防・救急		2 火災予防対策を充実します						
		副目的	1-1										
	予算区分	款	9		項	1		目	1		大	5 中 2	
	根拠法令・個別計画	小牧市地域防災計画											
	目的 (対象をどのような状態にするのか)	1 市内小、中学校の少年消防クラブ員に対し、消防についての関心と知識を深めさせる。 2 婦人消防クラブの地域に対する防災意識を高め、クラブ数、クラブ員数の維持を図る。											
	内容 (手段)	<p>◆25年度実施内容</p> <p>1 少年消防クラブ</p> <p>(1)放水、煙道、救急、地震などの体験ができる「少年消防クラブ消防学校1日入校」に参加させる。(小学5.6年生対象)</p> <p>ア 開催回数:年1回 イ 開催場所:愛知県消防学校(尾張旭市)</p> <p>ウ 参加人員:市内16小学校から各2名 エ 主催:全国少年消防クラブ運営指導協議会愛知県支部</p> <p>(2) 秋季・春季火災予防運動に伴う市内防火広報に参加させる。</p> <p>ア 実施回数:秋季・春季各1回(平成17年度から実施) イ 実施場所:市内大型物品販売店舗</p> <p>ウ 参加人員:秋季・春季各4名(小学4.5.6年生対象) エ 主催:小牧市消防本部</p> <p>(3) 少年消防クラブの会報誌を作成し、市内小学校に配布する。 (年2回、平成21年度から実施)</p> <p>(4)救命入門コースを開催し、受講させる。</p> <p>ア 開催回数:4回 イ 参加人員:51人</p> <p>2 婦人消防クラブ</p> <p>(1)地区訓練指導 (2)法被・ヘルメット・婦人消防クラブ旗の交付。(全クラブへ交付済み)</p> <p>(3)1クラブ1万円の補助金交付(平成8年度より。平成23年度より希望クラブにのみ交付)</p> <p>(4)市主催の水防訓練・防災訓練・出初式・消防フェアに参加。</p> <p>(5)愛知県消防協会主催の婦人消防クラブ幹事会に、消防職員が連絡・調整し随行する。</p> <p>(6)3の婦人消防クラブには、軽可搬ポンプが貸与されており、各婦人消防クラブで毎月1回点検を実施し、調子が悪ければ消防本部が修理を行う。</p> <p>(7)普通救命講習を実施する。</p> <p>ア 開催回数:3回 イ 参加人員:41人</p> <p>◆平成25年度直接経費の内訳(538,695円)</p> <ul style="list-style-type: none"> 旅費(婦人消防クラブ視察研修等随行)6,900円 需用費(少年消防クラブキャップ、一日入校昼食、婦人消防クラブパンプス等)202,960円 役務費(少年消防クラブ傷害保険、婦人消防クラブ制服等クリーニング代)11,700円 使用料、賃貸料(視察研修時の有料道路、駐車場代)8,900円 負担金、補助及び交付金(婦人消防クラブ負担金、補助金)308,235円 <p>◆平成26年度直接経費の内訳(1,233,000円)</p> <ul style="list-style-type: none"> 旅費(婦人消防クラブ視察研修等随行)12,000円 需用費(少年消防クラブキャップ、一日入校昼食、婦人消防クラブパンプス等)308,000円 役務費(少年消防クラブ傷害保険、婦人消防クラブ制服等クリーニング代)25,000円 使用料、賃貸料(視察研修時の有料道路、駐車場代)113,000円 負担金、補助及び交付金(婦人消防クラブ負担金、補助金)775,000円 											
	受益者負担	無											

		単位	H23決算額	H24決算額	H25決算額	H26予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	589	524	538	1,233	
		正職員	従事者数	人	0.27	0.27	0.27	0.26
			人件費	千円	1,420	1,420	1,420	1,367
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計	千円	2,009	1,944	1,958	2,600	
	対前年比	%			96.7	100.7	132.7	
財源	一般財源	千円	2,009	1,944	1,958	2,600		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H23	H24	H25	H26
	績	「少年消防クラブ消防学校1日入校」及び「女性消防クラブ指導者科」入校開催回数	回	目標	2	2	2
実績				2	2	2	2
業	防火広報	回	目標	2	2	2	2
			実績	2	2	2	2
業	婦人消防クラブ数	組	目標	76	76	68	67
			実績	76	68	67	67
業	成果指標名	単位		H23	H24	H25	H26
	「少年消防クラブ消防学校1日入校」及び「女性消防クラブ指導者科」入校参加人数	人	目標	34	34	34	34
実績			34	34	34	34	
業	婦人消防クラブ員数	人	目標	1,363	1,363	1,165	863
			実績	1,363	1,165	863	863

事業の自己評価	平成25年度の実施結果	事業の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 少年消防クラブ員32名の「少年消防クラブ消防学校1日入校」を活動指標、成果指標の目標どおり実施できた。 平成21年度より、各行事に参加した少年消防クラブ員の様子及び感想文をまとめた会報誌を作成、市内小学校に配布し消防に関する意識の向上を図った。 婦人消防クラブ員2名の「愛知県消防学校女性消防クラブ指導者科」入校を活動指標、成果指標の目標どおり実施できた。 少年消防クラブに対する救命入門コースを目標通り実施できた。 				
	事業実施における課題	<ul style="list-style-type: none"> 少年消防クラブ員に対し、消防に関する意識の向上とともに、併せて技術指導もすすめる必要がある。 婦人消防クラブのクラブ数が、年々減少している。 					
	事業を縮小・廃止したときの影響	<ul style="list-style-type: none"> 少年消防クラブ員の火災等の消防に関する関心が薄れ、火遊び等による火災件数が増加する。 現在の婦人消防クラブの活動方針は、行政の力「公助」だけではなく、自分自身の身は自分で守るという「自助」と地域住民の助け合い「共助」の連携が必要不可欠であるとしている。このことを平常時から地域住民に啓発し、災害時には地域の女性リーダーとして、応急対策活動を行う婦人消防クラブがなくなると前述の連携が崩れるため、災害による被害を最小限に抑えることができないことが懸念される。 					
	平成26年度の改善内容	26年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	少年消防クラブ員に対し、救命入門コースを受講者を60人から80人に増やす。				
平成27年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)				
	判定理由	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時の被害を最小限に抑えるために婦人消防クラブが地域住民に対して「自助」、「共助」を普及啓発していくことは不可欠である。しかし、地区によって活動に対して取り組みに差があるため、今後の活動内容の在り方について検討していく必要があるため。 					
	27年度以降の改善案	<ul style="list-style-type: none"> 各区長あてに、文書等で婦人消防クラブの必要性について通知し、婦人消防クラブを編成していない地区に対しては設立するよう働きかけるとともに、解散した地区についても再結成を訴えかける。 					

二次評価	方向性の判定	維持	判定理由
	維持	一次評価のとおり。	